

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.98 (2024.5.27)

令和6年度スローガン
過去最高業績への挑戦
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

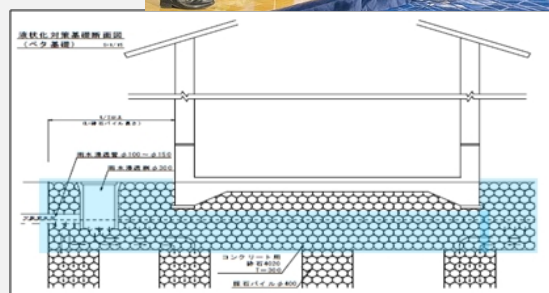
5月17日（金）東京目黒雅叙園において「第17回 HySPEED 全国大会」が開催されました。全国115社の代理店が5月～4月までの一年間の施工延長数を競う「第17回 HySPEED ネットワーク受注キャンペーン」では、2017年、2021年に続き三年ぶり三度目の全国3位となりました。また北海道・東北エリアでは今年もトップの座を獲得しました。千葉部長をはじめ地盤事業部社員、施工部隊の皆さん及び本社スタッフ等、多くの社員が協力して受注・施工を行った結果であったと思います。



能登半島地震 調査報告 調査日：2024年2月5日～9日時点

エリア	HYSPEED工法 施工実績	地震被害	備考	被害割合
石川県	2,597 棟	7棟	液状化：3棟 土砂崩れ：1棟	0.27%
富山県	3,453 棟	1棟	液状化	0.03%
新潟県	1,286 棟	1棟	液状化	0.08%

以前ある方が「今回の能登半島地震による被害で、碎石地盤改良の被害が多かった」というような発言を聞いたことがありますが、開



発元が現地入りして調査した結果、左図の様にきわめて少ないことが分かりました。事前の地盤調査によって液状化が懸念される現場は、建物安定計算に加えて液状化対策の計算も付加して設計し、碎石透水層を設置しており、この効果が大きかったということでした。

株式会社住宅産業研究所 代表取締役社長 関 博計氏が特別講演として登壇、住宅市場の変遷と戸建市場分析、ハウスメーカーの動向などについて詳しく説明されました。講演の中で関氏は、「国内住宅市場の縮小のスピードが速まり、いよいよ新設住宅着工は70万戸時代に突入しつつあるが、住宅関連市場の裾野は広く、戸建が厳しいならば貸家、不動産、土地、リフォーム、中古の流通など住宅にこだわらず自ら持つ技術を何処に活かすかが重要」と述べました。

また令和7年4月から施行される「建築確認の見直し」では、200㎡以下の平屋を除いた木造住宅で、構造関係規定等の図書の提出が新たに求められるとの説明がありました。当社の様に全棟構造計算をしている会社は問題ありませんが、これまで構造計算をしていなかった住宅会社は大きな負担増になるものと思われます。

木造	階数	新2号	新2号	新2号
3以上		○	○	○
2		○	○	○
1		△	○	○
		(一部審査省略)		
		200㎡	500㎡	延べ面積

構造規定等の確認も必要に

社内施工技術発表会

5/10 第23回社内施工技術発表会が行われました。8名が発表し、審査の結果鉄道工事部坂本君が担当した、「飯詰・大曲間大曲線橋外1橋りょう補修工事」が最優秀賞に輝きました。跨線橋の補修工事では3橋目で、これまでの知見を活かして見事に工事を成し遂げ、審査員全員一致での受賞でした。おめでとうございます。



ハピネット

秋田ノーザンハピネットの#17 中山拓哉選手と#24 保岡龍斗選手が2023-24シーズン終了の報告に来訪されました。5月5日にCNAアリーナで行われた千葉ジェッツとの最終戦の話題になり、シーズン最後の試合が最高の試合だったと盛り上がりました。2026-27シーズンから開幕が予定されている「Bリーグプレミア」への参入条件のひとつである平均入場者数も4千人以上という条件を超える過去最多の4,342人で、参入の可能性が大きく高まりました。来シーズンも応援して参りたいと思います。

